

コーヒーを片手に読みたくなる本

春はすぐそこまで来ているものの、まだまだ寒い日も多いこの時期。そんなときは温かいコーヒーを飲むとホッとしますね。そこで今回はコーヒーを片手に読みたくなる本をご紹介します。

1冊目は、庄野雄治/著『コーヒーの絵本』です。

インスタントで手早くサッと飲むのも良いですが、自宅でお店みたいな味が飲めたらもっといいな、と思ったことはありませんか。この本はカフェ店主が書いた、大人がコーヒーを楽しむための絵本です。「絵本」とタイトルにつくように、可愛らしいイラストでコーヒーの基礎知識から美味しく淹れるコツまでをシンプルな言葉でわかりやすく教えてくれます。意外と知らないカフェオレやカプチーノの配合なども紹介されていて、コーヒーを淹れるひとときが楽しくなりそうな一冊となっています。

2冊目は、吉田篤弘/著『月とコーヒー』です。

トランプから抜け出したジョーカー、コバルト・ブルーのインクだけを作り続ける男、年老いた三人の泥棒…。世間の片隅でささやかな毎日を生きる、ちょっと変わった登場人物たちがでてくる短編集です。さまざまなお話のなかで、コーヒーを飲むシーンが度々でてくるのも特徴的な作品となっています。

物語と同様、この本の装丁もちょっとだけ変わっています。サイズは文庫本より一回り大きく、厚さも3cmほどで少し分厚めの一般的にはあまりみない体裁の本です。モノトーンのイラストと相まって、まさにコーヒーの傍らにぴったり。じっくり愉しみたい作品です。

3冊目は、世界文化社『素敵な時間を楽しむ カフェのある美術館』です。

美術館や展覧会に足を運び刺激を受けるのはとても有意義ですが、会場を出る頃には案外疲れていたりするものです。そんな時すぐ近くに素敵なカフェがあったら、つい立ち寄りたくなりますよね。この本は、そんなカフェが併設されている全国の美術館を紹介しています。

満点の星空の下、本格的なフレンチコースを提供するお店やガーデンウェディングができるお店、味噌の蔵元直営のお店などなど、美術館はもとよりカフェを目当てに行きたくするようなお店も数多く掲載されています。コーヒーを飲みながら、行ってみたい美術館やカフェを探してみるのはいかがでしょうか。

この他にも図書館にはさまざまな本があります。ぜひお越しく下さい。